

《2024年2月 公開サロン（通算328回）報告》

U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップをめぐって — 第8回大会の総括と今後の展望 —

【日時】2024年2月27日（火）19:30～21:30 ⇒ 終了後はオンライン懇親会

【会場】オンライン（Zoom）

【テーマ】U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップをめぐって— 第8回大会の総括と今後の展望

【参加者（サロンファミリー 6名）】 ★はNPO会員

安藤裕一（GMSS ヒューマンラボ）、磯和明（少年サッカークラブ）、橘和徳（富山中部高校）、
★茅野英一（かながわクラブ）、★中塚義実（筑波大学附属高校）、★本多克己（楳シックス）

【参加者（関係者 4名）】

難波和樹（神戸ハーバーフットサルクラブ）、山野達也（ペスカドーラ町田）、
村上明（熊本県矢部高校）、大友洋介（武相高校／関東フットサル連盟理事）

【報告書作成】中塚義実

【概要（理事長より）】

NPO サロン 2002 が toto 助成を受けて主催する「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」が、1月6～8日に長野県千曲市で、4年ぶりに制限なしで観客を受け入れ開催されました。北海道から鹿児島まで、全国のU-18 フットサルリーグ代表が集まり、フウガドールすみだファルコンズが3連覇を達成しました。

この大会を経て、大学やFリーグ、海外のクラブや日本代表で活躍する選手が数多くいます。世界につながる大会です。

そして同時に、開催地を活性化させるイベントとしても定着してきました。3日間となった今大会は、上山田温泉の「冠着太鼓」紹介の場を設けるなど、これまで以上に千曲市との連携を図りました。

次のテーマで情報と意見を交換したいと考えます。

【目次】

I. 第8回大会の総括

3日間となった大会運営／競技面／
付帯イベントと千曲市の関わり／
動画配信について

II. U-18 フットサルの現状と今後

各地域の状況／全国的な動向

III. ディスカッション

【キーワード】

フットサル、U-18 フットサル、U-18 フットサルリーグ、
U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ、U-18FLCC、
ユースリーグ、ことぶきアリーナ千曲、千曲市、温泉街、
戸倉上山田温泉、信州千曲観光局、地域振興、町おこし、

I. 第8回大会の総括（中塚義実）

1. 大会挨拶に込めた思い

代表者会議のときに皆さんに配った「ご挨拶」です。開催期間を2日から3日に延長し、全チームが3日間ゲーム楽しみ、千曲市で過ごせるようにしました。そして二つのイベントー開会セレモニーと千曲市の文化紹介を企画しました。2022年11月に千曲市で開かれた公開シンポジウム「温泉街をスポーツで盛り上げよう！」が一つのきっかけになったかと思えます。

全国各地で、地方再生が叫ばれています。少子高齢化の影響で地方が大変なことになっています。加えてコロナの影響で、地方は二重三重のダメージを受けています。千曲市の場合は台風被害もありました。温泉街は大打撃を受けましたが、コロナをただネガティブに捉えるだけでなく、例えば都会で暮らす人の「ワーケーション」を受け入れました。WorkとVacationをともに楽しむライフスタイルです。このように、地方発信でいろんな動きが始まろうとしています。千曲市はこういうのを積極的に受け入れています。これからの地方のあり方、地方の活性化にスポーツが貢献できるのではないかと、このようなことを議論したのが2022年度の公開シンポジウムでした。

このシンポジウムが一つのきっかけになったと思えます。苦しいときをともに乗り越えてきたからこそ、U-18年代のフットサルを、千曲市とともに盛り上げていきたいという思いを、NPO法人サロン2002で改めて感じているところです。

「U-18年代のレベルアップ」と「日常的なリーグ環境の整備」が、この大会の二つのねらいとしてずっと掲げてきたことですが、そろそろ次の段階に入ろうとしています。

大会が始まる前に提示した主催者からのメッセージには、このような思いが背景にありました。

ご挨拶 – 初の3日間開催へ向けて

今年も1月最初の週末に、長野県千曲市で、U-18フットサルリーグチャンピオンズカップがtotoの助成を受けて開かれます。8回目となる今大会は、開催期間を2日から3日に延長し、全チームが3日間ゲームを楽しみ、千曲市で過ごせるようにしました。さらに二つのイベントー開会セレモニーと千曲市の文化紹介ーを通して、互いの交流を深め、千曲市をより理解してもらうことを模索しています。

2022年11月に千曲市で開かれたシンポジウム「温泉街をスポーツで盛り上げよう！」の前後から、千曲市と密接に連携しながらこの大会を育てていく方向性が定まりました。第3回大会からことぶきアリーナ千曲が会場となりましたが、第4回大会は台風被害の影響が心配される中での開催でした。第5回から第7回まではコロナ禍での大会となり、特に第5回大会は緊急事態宣言下で、開催決定はギリギリの決断でした。<大会に携わるすべての人が「withコロナ」の新たな様式を理解し実践すること求め、「どうすればできるか」「何ができるか」をさぐりながらの3年間でした。

これらの苦しい時期をともに乗り越えてきたからこそ、3日間開催となったこの大会、そしてU-18フットサルそのものを、千曲市とともに盛り上げていこうと、改めて感じているところです。

この大会の主催は「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」を“志”に掲げるNPO法人サロン2002です。全国のU-18リーグ状況について毎年調査し、それをもとに出場枠を決定しています。

今年度回答があったのは、北海道、宮城、埼玉、東京、神奈川、静岡、愛知、富山、長野、京都、大阪、兵庫、福岡、熊本、鹿児島、そして関東の16リーグでした。このうち宮城県が諸事情により代表チームを出せない連絡があり、リーグ戦参加チーム数の多い神奈川が一枠追加となりました。また、都道府県ではない「関東」という上位リーグにも一枠設けました。主催団体としてはこのような動きは大歓迎です。各地域の主体的かつ積極的な動きに対して、柔軟かつ公平・公正に対応してまいります。ただしリーグ戦は、この大会に出場するための予選ではありません。“生活”に根差してしっかり“遊ぶ”、“組織”としてのリーグの整備を求めます。

初参加は鹿児島県です。ほかの府県でもリーグ戦が整備されつつある情報を耳にします。

一方で、昨年度までリーグ戦が実施されていた、または立ち上げの機運がみられた福島、福井、和歌山、徳島の名前がありません。各地域には固有の事情があるでしょう。と同時に、会場・審判の確保、スケジュール問題など、全国共通の、普遍的で大きな課題もあります。

U-18フットサルの方向性について検討プロジェクトが立ち上がり、議論が進められているようです。1月7日の懇親会でも、ざっばらんな意見交換ができるとよいと考えます。

「U-18年代のレベルアップ」と「日常的なリーグ環境の整備」を意図して始められたこの大会は、次の段階に入ろうとしています。大会に携わるすべての人が、U-18フットサルを思う存分楽しみ、千曲市を堪能していただくことを願います。そして大会後も、それぞれの地元で、健康・安全で“ゆたかなくらし”が展開されることを、心より願います。

令和5年12月27日
特定非営利活動法人サロン2002理事長 中塚 義実

2. 武水別神社公式参拝

ここからは写真で振り返ってきたいと思います。

まずは武水別神社へのお参りです。武田信玄と上杉謙信の川中島の戦いは有名ですが、その緒戦となった「八幡の戦い」はすぐ近くだそうです。信玄も謙信もこの神社にお参りしたという、由緒正しきお宮です。大会の成功と安全祈願、関係者の健康と安寧をお祈りしました。初日の朝で、こういう顔ぶれでした。本多さんや橘さんがいます。地元審判の方と私が公式参拝をしました。数人いる若手は国土館大学3年生で、映像スタッフとして来てくれました。



3. 会場は「ことぶきアリーナ千曲」

大会が開かれたことぶきアリーナは、千曲市役所とつながっています。この施設ができたときの岡田昭雄市長に、長野県フットサル委員長だった村山吉郎さんが働きかけ、大会を千曲市で開催することになりました。村山さんは2022年9月に急逝されました。

このアリーナではフットサルだけでなく、バレーボールやバスケットボールが行われています。B1リーグの信州ブレイブウォリアーズは日本代表選手もいる強豪ですが、ここをホームアリーナのの一つとしています。



しかし B1 昇格条件に 5,000 人収容のアリーナの確保が必要です。ことぶきアリーナでは収容人数が足りないため、長野オリンピックのフィギュアスケート会場だったホワイトリングに変更することになりました。そこはもともとボアルース長野というフットサルクラブがホームアリーナにしていたのですが、両者が入れ替わることになったということです。いろんな種目が利用するアリーナです。

1月7日は左上の写真のような感じでしたが、1月8日は雪景色となりました。それほど雪は積もらない地域ようですが、数年に一度は積もります。大雪になってえらい目に遭ったこともありました。富山の方が、家のガレージから車が出せなくなり、大変な思いをしたことがありましたよね。

3. 試合のようす

大会初日のオープニングマッチです。熊本県から初出場の矢部高校が、優勝したフウガドルすみだと初戦で対戦します。矢部高校のメンバーはびっくりしたと思います。前半で15点入りました。

矢部高校は初の全国の舞台です。同世代の全国レベル、場合によったら代表レベル、国際レベルのフットサルに触れることになりました。すごく良い経験になったと思います。



左の上下写真は、名古屋オーシャンズ U-18 の応援風景です。Fリーグの下部組織です。Jリーグ同様、トップチームと同じような応援がみられます。

賑やかなムードの中、大会は事故やトラブルもなく進んでいきましたが、最終日の試合で救急車を呼ぶことになりました。試合中の接触で、北海道の選手が脛骨を骨折。病院へ搬送され、そこで一晩過ごすことにな

ったものです。

北海道のチームは札幌ではなく稚内のあたりからの参加です。大会日程は、最終日の試合が終わってその日のうちに地元に戻れるようにスケジュールされていますが、稚内の方までにはさすがに戻れません。このチームは前泊・後泊で動いていたので、救急車で運ばれた子も、皆と一緒に帰宅できたようです。

4. 付帯イベント

3日間の大会日程の中に、出場チーム同士や、地元千曲市との交流の場を設けられないかと考えました。そして初日にイベント①オープニングセレモニー、2日目はイベント②「千曲市の文化紹介」の時間を設けることができました。いずれも全チームが会場にそろう時間帯です。

オープニングセレモニーでは、千曲市の小川修一市長にお越しいただき、ご挨拶をちょうだいしました。そして出場16チームから、宿泊先の紹介と各チームのPRを90秒でもらいました。

これはかなり良かったです。全国から集まるので、地域性を感じました。やはり関西の高校生はいかに笑いを取るかということを考えますね。たったの90秒でも全力で向き合います。京都と福岡がおもしろかったですね。

写真は、2日目に全チーム揃っているところでのイベント②「千曲市の文化紹介」のようすです。ちょうどお昼前後の時間帯で、全チームの選手・保護者の方々はスタンドで昼食をとりながらこれを見ているかたちです。上山田温泉の人たちが「冠着太鼓」を披露してくださいました。リーダーは有田屋旅館の柳ヶ瀬さん。矢部高校が宿泊していた宿の若旦那です。3日間開催となり、地元との交流の機会を設けたいと考え、観光局から打診してもらったところ、地元の方々はやる気満々で準備してくださいました。進行役は亀清旅館のご主人のタイラーさん。日本に来て20年ぐらい経つアメリカ人のご主人です。司会進行されながら、千曲市に伝わる昔話なども披露され、すごくよかったです。こちらでも大会出場チームが利用した宿です。このようなイベントができたのがすごく良かったと思います。

「冠着太鼓」の披露のあとは、岡田前市長に挨拶いただきました。千曲市で開催することになった時の市長です。今年の11月に、千曲市の市長選があるそうです。



5. 決勝戦と表彰式

最終日は準決勝と決勝だけです
が、ベスト4に残れなかった12チ
ームも交流戦を楽しみました。最後
までゲームができて千曲を堪能で
きるスケジュールがよかったですね。

準決勝のペスカドーラ町田と湘南
ベルマーレロンドリーナの試合はPK
戦となり、ロンドリーナが決勝進
出。もう一試合はフウガドールすみ
だが勝ち上がります。ともに東京 vs
神奈川の対戦でした。

湘南ベルマーレとフウガドールす
みだの決勝戦は3-0でフウガが優
勝。3連覇達成です。

表彰式の様子です。右上は第3位
となったペスカドーラ町田。左下が
準優勝の湘南ベルマーレロンドリー
ナです。左上は得点王の選手で、世
界最高齢ジャーナリストの賀川浩賞
が授与されました。数え年で100歳
になる賀川さんはサロンファミリー
でもあります。

優勝したフウガドールすみだファ
ルコンズの表彰と喜びのシーンで
す。

6. 大会全体を振り返って

全試合結果は次ページのとおりで
す。全国から集まった16チームが4チーム
×4グループの総当たり戦を経て、ベスト4
からノックアウト方式で準決勝と決勝、3位
決定戦を行う形です。

U-18年代で先行していることやっ
てきた東京と神奈川が、チーム数も、全体の
レベルも高いですね。今回も準決勝は2試合
とも東京 vs 神奈川でした。フウガの3連
覇の前はペスカドーラ町田が優勝したの
で、東京勢としては4年連続優勝というこ
とになります。



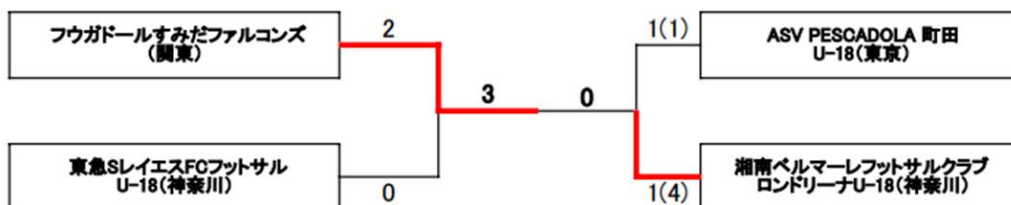
第8回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ

Aグループ		フウガ	矢部	KOBE	翔洋	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点	順位
1	フウガすみだ	-	20-0	4-1	3-0	9	3	0	0	27	1	26	1
2	矢部高校	0-20	-	0-4	3-8	0	0	0	3	3	32	-29	4
3	KOBE HARBOR	1-4	4-0	-	2-5	3	1	0	2	7	9	-2	3
4	東海大付属翔洋	0-3	8-3	5-2	-	6	2	0	1	13	8	5	2

Bグループ		レイエス	シュライカー	VALIENTE	83SPIRITS	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点	順位
1	東急Sレイエス	-	3-2	4-1	6-0	9	3	0	0	13	3	10	1
2	シュライカー大阪	2-3	-	2-1	8-4	6	2	0	1	12	8	4	2
3	VALIENTE	1-4	1-2	-	7-5	3	1	0	2	9	11	-2	3
4	83SPIRITS	0-6	4-8	5-7	-	0	0	0	3	9	21	-12	4

Cグループ		PESCADOLA	オーシャンズ	VIENTO	AZVERT	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点	順位
1	PESCADOLA町田	-	4-3	4-1	10-1	9	3	0	0	18	5	13	1
2	名古屋オーシャンズ	3-4	-	1-1	9-4	4	1	1	1	13	9	4	3
3	VIENTO	1-4	1-1	-	11-1	4	1	1	1	13	6	7	2
4	AZVERT薩摩川内	1-10	4-9	1-11	-	0	0	0	3	6	30	-24	4

Dグループ		ロンドリーナ	久御山	エストレーラ	久留米	勝点	勝	引	敗	得点	失点	得失点	順位
1	ロンドリーナ	-	11-1	3-2	18-2	9	3	0	0	32	5	27	1
2	久御山高校	1-11	-	0-6	7-7	1	0	1	2	8	24	-16	3
3	エストレーラ川口	2-3	6-0	-	9-2	6	2	0	1	17	5	12	2
4	久留米学園高校	2-18	7-7	2-9	-	1	0	1	2	11	34	-23	4



コロナ禍でお客さんを受け入れられなかったところに動画配信を試み、いまに至ります。サロンファミリーで配信チームを作って対応してきましたが、今回は「グリーンカード」という、アマチュアスポーツの動画配信事業に取り組む業者さんとタイアップして取り組みました。写真はその様子です。

カメラが1台多いと思うのですが、これは、我々が配信しているところを、地元のケーブルテレビが取材している写真です。

右端が千曲ケーブルテレビです。今回、ケーブルテレビだけでなく、地元の「千曲未来新聞」をはじめとする新聞社などから取材を受けることができました。

信濃毎日新聞では東北信版で取り上げてもらいました。大きな記事ではありませんが、写真入りで取り上げてもらったのはありがたいことです。この大会が地元にも根付いていくための重要なステップだと思います。





7. U-18 フットサルのあゆみとこれから

U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの過去 8 回をざっと振り返ります。第 1 回はエコパアリーナ（静岡）で開催し、地元の HeroFC U-18 が優勝、第 2 回は武田テバオーシャンアリーナ（愛知）で、これまた地元の SANTOSFC U-18 が優勝しました。ブラジルの香りいっぱい、遊び心あふれるスキルフルなチームでした。

第 3 回大会からことぶきアリーナ千曲が会場です。優勝した京都橘高校は人数も少なかったのですが、サッカー部らしい体力と足技のあるチームでした。決勝はペスカドーラ町田との対戦で、町田にとってはとても悔しい、サッカーチームへの敗戦となりました。

第 4 回大会で、Fリーグの下部組織が初優勝します。シュライカー大阪です。台風被害があった年度の大会でした。

これ以降、Fリーグの下部組織の東京勢が優勝を続けます。第 5 回はペスカドーラ町田、第 6 回から今回までフウガドルすみだファルコンズです。

この大会が開かれる経緯もざっとみておきたいと思います。そもそも U-18 年代には全国規模の競技会がありませんでした。都道府県レベルでは東京都が最

U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップ

第1回	2017年 1月6日(金)、7日(土)	エコパアリーナ（静岡県） 8チーム 優勝： HeroFC U18F （静岡県）
第2回	2018年 1月6日(土)、7日(日)	武田テバオーシャンアリーナ（愛知県） 12チーム 優勝： SANTOS FC18 （愛知県）
第3回	2019年 1月5日(土)、6日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県） 12チーム 優勝： 京都橘高等学校 （京都府）
第4回	2020年 1月4日(土)、5日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県） 16チーム 優勝： シュライカー大阪 U-18 （大阪府）
第5回	2021年 1月9日(土)、10日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県） 16チーム 優勝： ペスカドーラ町田U-18 （東京都）
第6回	2022年 1月8日(土)、9日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県） 16チーム 優勝： フウガドルすみだファルコンズ （東京都）
第7回	2023年 1月7日(土)、8日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県） 16チーム 優勝： フウガドルすみだファルコンズ （東京都）
第8回	2024年 1月6日(土)～8日(日)	ことぶきアリーナ千曲（長野県） 16チーム 優勝： フウガドルすみだファルコンズ （東京都）

初で、2001年度にサッカー協会主催大会が始まり、JFA キャプテンズミッションの中で東京都の取り組みが全国に紹介され、徐々にいろんな地域で大会やリーグができました。

民間レベルでは2010年にホンダカップでU-18カテゴリーが新設されます。このような動きを踏まえ、2012年3月に「U-18 フットサルトーナメント2012」が開催されます。本多さんと中塚の作戦会議がきっかけです。初の全国規模のU-18大会と言えるでしょう。

これをオフィシャルな流れに乗せていこうということで、2013年3月の第2回大会のアーリーナで、サロン2002 公開シンポジウム「U-18 フットサルを語ろう」が開かれました。このシンポジウムに、JFA フットサル委員長など重鎮の方々にご登壇いただき、U-18年代の競技会がスタートする契機となりました。

GAVIC CUP は連盟主催の選抜大会ですが、2018年度を最後に中断してしまいました。2023年3月に兵庫県 FF 主催で選抜大会が復活しました。

JFA 主催の全日本ユース (U-18) 大会はいまに続く単独チームの全国大会です。今年度はこの大会でもファルコンズが優勝しました。昨年度は町田が優勝しています。

あとは各地域のリーグ環境の整備です。そのためのきっかけとしてリーグチャンピオンズカップを開こうということを考えました。最終的には協会や連盟が主催する公式大会に育てていきたいところですが、それは全国にU-18リーグが育ってからの話です。そこまでは我々サロン2002が主催して、U-18 フットサルを盛り上げていこうということです。

2000年ごろ～ 東京都で大会開催、リーグ設立。U18世代のフットサルが活性化。

2010年 ホンダカップでU-18カテゴリーを新設
(優勝は名古屋オーシャンズU-18)

2012年 **U-18フットサルトーナメント
2012**

9地域の代表による全国規模の大会開催
(優勝は名古屋オーシャンズU-18)



2012年決勝 オーシャンズ vs 作陽

2013年 第2回大会会場にてサロン2002公開シンポジウム
「U-18フットサルを語ろう！」を開催

2014年 JFA主催の「第1回全日本ユース (U-18) フットサル大会」

2015年 U-18フットサルトーナメントを継承し、主催：日本フットサル連盟
共催：サロン2002で「ユースフットサル選抜トーナメント」を開催

2017年 サロン2002主催「U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ」を開催

この大会を機に各地にU-18リーグが整備され、日常的にフットサルを楽しめる環境が整備されていくことを願う。



GAVIC CUP ユースフットサル選抜トーナメント

2012年に「U-18フットサルトーナメント」として創設。

2015年からは名称を変更し、一般財団法人日本フットサル連盟

主催、サロン2002共催（2017年まで）で、全国9地域から選抜された12チームで開催。2018年度以後は開催なし。

2023年3月に兵庫県フットサル連盟主催で選抜大会開催！⇒復活の兆し

2024年3月も兵庫県で。2025年度以降は和歌山県で？⇒育成年代の強化

2012年 名古屋オーシャンズU-18(愛知) / オーシャンアリーナ

2013年 瀬戸内高校 (広島) / オーシャンアリーナ

2014年 幕張総合高校 (千葉) / 駒沢体育館

2015年 愛知県選抜U-18 / 墨田区総合体育館

2016年 U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館

2017年 U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館

2018年 U-18神奈川県選抜/和歌山ビッグホール



全日本ユース(U-18)フットサル大会

日本サッカー協会主催の大会として全国9地域で予選を開催。

U-18年代の単独チームNo.1決定戦。高校サッカー部が多数出場。

2014年 聖と学園FC(宮城)/ 大田区総合体育館、墨田区総合体育館

2015年 岡山県作陽高校(岡山)/ ゼビオアリーナ、仙台市体育館

2016年 帝京長岡高等学校(新潟)/ ゼビオアリーナ、仙台市体育館

2017年 矢板中央高等学校(栃木)/ ゼビオアリーナ、仙台市体育館

2018年 帝京長岡高等学校(新潟)/ ゼビオアリーナ、カメイアリーナ仙台

2019年 ペスガドーラ町田U-18 (東京) / 浜松アリーナ

2020年 **中止**

2021年 京都共栄学園高校(京都)/京都市体育館

2022年 ペスガドーラ町田U-18 (東京)・遊学館高校(石川) / 三重県サオリーナ

2023年 フウガドールすみだファルコンズ(東京) / 浜松アリーナ

※年/優勝チーム/会場

8. 第8回大会における運営面の課題

「宿が必要か必要でないか、決定した時点で局に必ず連絡を頂きたい。送迎等、難しい場合があります。スポンサー等（ルートインホテルズ）で、宿がある場合も連絡を頂きたい。イベントにつきましては、局だけでは限られてしまいます。気づいたことだけ書きました、よろしくお願い致します」と、信州千曲観光局の近藤弘之さんからコメントをいただいています。

また、1月30日の限定サロンで大会の振り返りをしたときに、長野県フットサル連盟の菅原さんから運営面での改善点がいくつか指摘されました。「3日間の開催となり、審判の確保がすごく大変だった」とのこと。その一方で、ノックアウト方式ではない大会形式だったので「各チームが非常にチャレンジングな、前向きのプレーをやってくれたのが印象的」とのコメントもありました。

以上、大会全般の報告、紹介をさせていただきました。

参加されたチーム、例えば町田の山野さんから補足、あるいは宿の問題などについてコメントいただければと思います。

山野：東京は順位が決まるのが遅く、また毎年リーグ終了の時期が異なるので宿への連絡が遅くなり、申し訳ないと思います。本来はもっと早くリーグ順位をつけておきたいのですが、東京では試合会場の確保が大変厳しく、また最近では夏の暑さを避ける傾向もあり、難しいところです。夏場だと空調が効いている施設で試合をしたいのですが限られます。設備が整っているところは会場費が高く、それが参加費に反映され、リーグ参加のハードルが上がってしまいます。リーグ運営に関してさまざまな問題があるというところです。それがあってリーグ期間が後ろ倒しになり、優勝決定が遅くなり、宿の予約が遅くなるというのが現状です。

あとコロナの問題は依然としてあり、メンバーがそろわないことなどがありました。今後はもう少し緩和されていくと思いますが、親御さんも含めての話になるので…。

中塚：ありがとうございます。村上さんや難波さんからも、参加チームの立場でのコメントをいただけないでしょうか。

難波：神戸ハーバーの難波です。我々は、先ほどの観光局・近藤さんをお願いして宿を手配してもらいました。今回私は現地に行けていませんが、宿はすごく良かったと聞いています。昨年度にお邪魔したときも、風情があってすごく良かった印象です。日常では感じられないような環境だったので良かったなと思っています。

費用は、来年から上がるかもしれないとお聞きしましたが、一緒だったらいいなと思います。けど食事付きであるの値段だったら高くはないですし感謝しています。高校生も温泉宿は喜びます。

中塚：高校生が温泉を喜んでいるというような話が、主催者側にはなかなか入ってこないんです。よい話をありがとうございました。そういう話をたくさん聞かせてもらえればと思います。

村上さん、どうでしょう。熊本から初参加ですが。

村上：私たちは太鼓のリーダーをされた有田屋旅館にお世話になりました。食事は朝から大量に出してもらい、大満足でした。また先ほど言われたように温泉も、硫黄の匂いが強烈で、なかなか味わえないような温泉でもとても満足しています。また利用させてもらいたいので、また出られるように頑張りたいです。

中塚：矢部高校は2日目の夜に開催した懇親会にもスタッフ全員が参加されていましたよね。これも有田屋さんの配慮でしょうか。

村上：はい。「生徒の方は宿で面倒みますから行ってきてください、大丈夫ですよ」という話で。それはありがたい。はい、はい、はい、ということですね。

中塚：運営に関する事で、審判派遣の問題についてはまた後で話したいと思います。

ここで、各地域のリーグ状況を共有しておきたいと思います。いつも言っていることですが、各地域のリーグ戦はこの大会の「予選」ではありません。まずは各地域のリーグ戦があり、それをしっかり整えていただくことがこの大会の大きなねらいです。

大会報告書には、各地のリーグ結果も掲載されます。いまちょうど本多さんが最終の取りまとめをしているところです。そこからみえてくる各リーグの状況を本多さんにご説明いただき、ご参加の皆さんから補足説明をいただくかたちで進めたいと思います。

II. U-18 フットサルの現状と今後

1. 各地域リーグの状況

本多：各リーグ状況は、過去のこの大会の結果とともに報告書にまとめています。今回は16リーグから参加の意思確認がありました。過去に参加したけど今回参加できなかったのは和歌山県と宮城県。徳島県からは毎年、リーグを開設したいという話はお聞きしますが、なかなか参加には至りません。

来年度以降、全国に16リーグ以上が開催される見込みです。するとどのようにして16チームを選んでいくかを検討していく必要があると考えています。

こちらからはひとまず以上です。できれば本日ご参加の皆さんから、各地のリーグ状況をお聞かせいただければと思います。あわせて、出場に至るまでの苦労話などがあると思うので、そういったところも聞かせていただけると嬉しいです。

村上：熊本県です。2023～24の熊本県U-18フットサルリーグのチーム数と参加費は次のとおりです。

前期 20,000円 参加チーム 6チーム

後期 20,000円 参加チーム 10チーム

うちのチームは3位だったのですが、1位と2位が辞退しまして、スライドで我々が出ることになりました。急に決まった話でもあったので、まずは旅費がどのくらいかかるのかを調べました。1人あたり11万円あまりかかることがわかりました。これはまずいぞということになり、どうしようかとなったんです。けどこんなチャンスはなかなかないので、保護者はもちろん、町の人たちがいろいろ動いてくださいました。

そもそも矢部高校がある山都町は、熊本の山間部、宮崎県との県境の、一面山になっているようなところなんです。山の整備の仕事を手伝ってくれたらアルバイト料を出せるという話になり、遠征費を作るために竹林の整備の仕事などをさせてもらいました。そこで遠征費の半分ぐらいをどうにか集め、残り半分は保護者の負担が少なくなるようにと町の人たちに呼びかけたところ、寄付金や、物販の売り上げなどが入り、15名全員分の参加費は、寄付や物販や自分たちのアルバイト料で対応することができました。

その経験があったおかげで、生徒たちはこの大会を本当に楽しみに参加させてもらいました。充実した3日間を過ごさせてもらったと思っています。ありがとうございます。

中塚：そのことが地元の新聞に取り上げられたとお聞きました。

村上：熊本日日新聞という地元誌に、大きなカラー写真で、全国大会に出るために山の整備を待たずという記事が載せてもらいました。全国大会に出るという字は小さく、山の整備をしている写真を大きく載せてもらって（笑）。そのおかげで寄付をしてくれる方もいらっしやったり、とてもありがたかったです。

中塚：ありがとうございます。参加に伴う苦労話はいろいろあると思います。そういう話もお聞かせいただきたいですね。本多さん、引き続き進行をお願いします。

本多：いま、大会の報告を作成しています。その原稿をみながら各地域リーグのようすを見ていきたいと思っています。

北海道は5チームのリーグ戦です。埼玉も5チームです。東京は1部・2部に分かれています。第16回目となっています。神奈川も1部・2部で構成されています。今年からは関東リーグが新設され、8チームで行われたようです。神奈川、東京以外に、栃木や千葉のチームも参加しています。

富山リーグもチーム数が一気に増えてきて13チームです。二つの地域に分かれて行われているようです。開催地の長野はいま3チーム2グループと、チーム数が減って少し寂しい状況です。静岡も以前から多くのチームがあり、1部・2部で運営されています。愛知はオーシャンズがほぼ毎年出場してくれていますが4チーム。京都は7チームで、高校のサッカー部、フットサル部がたくさん出ているのが特色です。大阪は3チーム。なかなか増えません。兵庫は5チーム、福岡も5チーム。熊本は、先ほども話がありましたが10年以上続くリーグです。今年初めて、鹿児島県からの出場があったということです。全体的には以上です。

中塚：せっかく各リーグからご参加いただいているので、いつ頃、どのようにやっているのか、例えばサッカーとのスケジュール調整などを含めて各リーグから補足していただけないでしょうか。

熊本は、先ほどのお話では前期と後期行われ、前期リーグの順位で出場することが合意されているということでしょうか。

村上：はいそうです。いま熊本は後期リーグをやっていますが、後期リーグは全国大会とは関係なく、次年度に参加してみたいとようなお試しのチームも入る形です。後期リーグでチーム数を増やして行っています。去年もそのおかげで2チームが増えましたが、今年はすごく増えて、後期リーグは10チームで行うことができます。

後期だけのチームは参加費を少なくしたり、大人の県リーグで3試合しか開催しないときに、残り2試合分を高校生リーグで使わせてもらうというように、体育館の利用も県協会と協力してもらっています。

中塚：以前お聞きしたときは、主に民間のフットサル施設でやっているとのことでしたが…

村上：体育館でできる回数を増やそうと取り組んでいますが、体育館で数多く試合をすることがなかなかできません。エンフレンテ熊本さんが持たれている民間コートで行ったりしながら、どうか試合を消化できるよう工夫しています。あと、うちもサッカーチームなのですが、サッカーチームができるだけ参加できるようにということで、カチッと決まった日程にするのではなく、柔軟に対応できる

ように、できる日が合うところで試合を消化していくようにしています。この日にやりたいという大まかな方針は出すのですが、この日だったらうちはできます、できませんか？ という確認を互いしながら、できるチーム同士で試合を消化していくという形で運営しています。サッカーチームもどうにか関わることができているような状況です。

難波：神戸ハーバーの難波です。兵庫県の現状ですが、高校のサッカー部にも投げかけているのですが、なかなか参加が難しく、我々のクラブから2チーム、U-15で参加しているのと、神戸国際高校の1年生を中心としたBチームを加えた計5チームです。ラソポーラは、来年度はどうなるかという話もお聞きしているので、リーグが開催できるかどうか不安です。兵庫県ではなかなか高校サッカー部に参加していただけないで、どうすれば参加してもらえるのかということをお考えしています。

橘：富山県の橘です。富山県は今年度、コロナが明けたということもあり、以前行っていたように県を東西に分けた東西リーグを各6チームで計画しました。東側が7チームになりましたので、7チームと6チームの総当たりを行い、各リーグの1位・2位チームがたすき掛けの順位決定戦をしました。それ以外のチームも交流戦を行い、できるだけ試合数を確保するようにしました。富山県は降雪地域ですので、冬季にフットサルをするのは以前からあった習慣ですが、さらにもう一段階押し上げて、フットサルのトレーニングがサッカーに生きるのだということをお伝えして行っているところです。

富山県はほとんどが高校サッカー部です。フットサルを専門にやっているクラブは一つもありません。今回出場してしたVIENTOは中学時代、3種年代のクラブで一緒にやっていた選手たちで組んでいるクラブです。普段から一緒にフットサルのトレーニングをしているわけではありません。このクラブはU-15全日本フットサル選手権で富山県大会10連覇しています。その力をU-18でも発揮しているということです。今年度はVIENTOが恐ろしく強く、40点入るようなゲームが多く出ましたので、次年度以降は東京や神奈川のように1部・2部制に改編する提案をしていきたいと思っております。

富山県リーグの取りまとめ役をする私はフットサル連盟の理事であり、かつ高体連サッカー専門部でフットサルを担当させていただいています。高体連の会議の中で参加チームを募ったり、フットサル関係者のご協力を仰いでいるところです。7チームリーグとなって節を増やさないといけない不安がありました。1チーム休みを作ると、先ほどの熊本県の話にあったように、この日は休みたいというチームが出て何となく組めるので、奇数チームのリーグ戦も意外とできると感じた年でした。

次年度に1部・2部に分けると、2部リーグの運営や審判に不安がありますが、そこについても皆さんで協力しながら、リーグとしての力をさらに高められたらなと思っています。

山野：ペスカドーラ町田の山野です。東京都リーグ1部です。ずっとやっていますが、人数確保が難しく、参加チーム数が減るということがありました。強いクラブでも「今年は少ないので中学生から引き上げてます」ということもあります。そもそも子どもの数が減っており、その中でフットサルを選ぶ子どもがどれくらいいるのかというのが大きな課題です。日程調整は、やはりサッカーチームは忙しくしているようで、忙しい中でどう参加、調整するのが課題です。リーグとしてのハードルをもう少し明確にして、どうすれば入りやすいリーグになるのかをリーグ関係者で話し合っています。U-15も運営しているクラブが多く、指導者もU-15とU-18で重なっていることもありますので、そこも含めて運営しやすい体制をとっていきたいという話をしています。

課題は多いのですが、試行錯誤しながら毎年やっています。

本多：地方の方と話をすると「東京はいいですね」といった話が出てくるのですが、東京には東京の苦勞があるということですね。

次に大友さんから、神奈川県リーグについてとこれからの U-18 フットサルの展望についてお話いただきありがとうございます。大友さんの準備がまだ整っていないようなので、いったん中塚さんに戻します。

中塚：いまの東京の話について補足します。U-18 フットサルリーグはいま、東京都フットサル連盟（TFF）の傘下に位置づけられています。一方で東京都サッカー協会（TFA）フットサル委員会の事業もあります。私は TFA フットサル委員会創設期からの委員で、U-18 年代の責任者を 20 年以上務めています。U-18 フットサルについては男子も女子も、活性化に携わっています。連盟が何をやって、協会がどこを担うのかということは、サロン 2002 でも 20 年以上前から議論してきましたが、実際にいろんな課題というか、軋轢があります。そもそも TFF に加盟するメリットはどこにあるのだということです。加盟しなくても U-18 リーグは自分たちで展開していました。あるところで TFF に加盟することになったのですが、それによって登録料がかかるようになり、その割には連盟傘下のメリットが感じられない。サッカーのクラブユース連盟のように、ユースフットサル連盟を作った方がいいんじゃないかという話もずっとあります。

TFF の側でも、U-18 や U-15 を傘下に置いた以上、何とかテコ入れせなあかんようになってきて、去年あたりから「高校生大会」をはじめました。ペスカドーラ町田やフウガドールすみだなどのクラブを除いた学校運動部のみの大会です。リーグ戦ではありませんが、数週間にわたって試合が続き、いまちようどやっているところです。私の勤務する筑波大学附属高校フットサル部が準決勝で勝ち、決勝に進出しました（注：第 2 回大会で初優勝！）。このような、属性別の多様な大会を実施することも、この年代のフットサルの活性化に繋がるのかなと思います。

山野さん、それについても補足があれば…。

山野：補足はありません。ただ、部活とクラブチームは、サッカーでは分かれていたりするので、そういう方向性はありかなとは思っています。

中塚：一方で町田もフウガも府中アスレもそうですが、大人のリーグにも出ていますよね。

山野：うちのユースは出てないんですけど、民間が運営しているリーグには出たことはあります。ただユースの時点で 2 軍のチームに登録し、トップの試合に出られる状態にある選手はいるので、大人と対戦できるレベルの選手は多くいます。府中やすみだは 1 種、大人のリーグに参加するチームもあると思います。

中塚：ありがとうございます。では大友さんの用意ができたようです。

大友：こんばんは。皆さん本当にお世話になっております。

まず神奈川県リーグは、報告書にある通り 16 年続いており、今年も 16 チームで開催できました。しかし、2019 年が 21 チーム、そのあと 20 年 23 チーム、21 年 21 チームから、22 年 20 チーム、23 年 16 チーム、そして来年の見込みが 14 チームで、実は激減しております。減ってしまったのは、今年度からだとサッカー部が 1 チーム、サッカーのクラブチームが 1 チーム。B チームも含め、16 チーム中 14 チームはフットサルのチームです。町クラブのフットサルチームは著しく衰退しています。2023 年度の参加チームの中で町クラブは、エスタジオ横浜。これはフェニックス横浜の下部組織となりますが、ここも来年度に参加できるかどうかは未定です。社会人リーグに属するクラブの下部チームが大苦戦しているのが現状です。

神奈川県でも東京でも起きている現状でいうと、部活関係も厳しいです。私が顧問を務める武相高校フットサル部と港総合高校の2校がリーグ加盟していますが、双方ともいま部員は1桁です。高校生は、ちょうどいいぐらいを望んでいるのかもしれませんが。あまり弱いと入らないし、かと言ってうちだつていけないという子もいて…。一方で、鶴峰高校は男女両方持っていて、今年度の部員は108名。湘南工科大学附属高校は男子ですが50名、市ヶ尾高校も男女合わせて80名と、ものすごい大所帯のフットサル部も存在します。

神奈川県はロンドリーナのようなクラブもあります。ここは中学まではサッカーがメインです。小中はサッカーがメインですが、フットサルリーグに中学生が2種のフットサル登録をし直して、二重に登録料を払ってU-18リーグに出ています。これは2種チームしか受け付けない、3種チームはU-15リーグにご参加くださいとしているからで、ちょっと裏技みたいな形にはなっていますが、現状はこのような形で開催しています。

東京も神奈川県も、一番厳しいのは会場問題でしょう。人はいても会場がないのが現状です。かなり苦労しながら、人工芝や民間施設もかなり使っています。半分体育館の半分民間、3分の1ぐらいは人工芝の民間ピッチで試合をしています。神奈川県リーグについてはざっとこんな感じです。

2. 関東U-18フットサルリーグチャンピオンズカップをめぐって

大友：関東のリーグチャンピオンズカップについてお話ししますが、その前に、皆さんこれを見たことありますか？ 『JFFフットサルハンドブック』という冊子です。今年の1月に日本フットサル連盟が発行した、いわゆる広報誌になるのでしょうか。これからのいろんなところに配りたいと思っているのでしょうか。フットサルを知ろうとか、代表の活動とか。日本のフットサルの現状というものを、日本連盟が主体となって広報誌を発行したというところですか。

特集記事に、大学フットサルの取り組みがあります。もう一つはU-18フットサルの魅力と取り組みということで、私も載せてもらっていますが、紹介しております。第2回関東U-18フットサルリーグチャンピオンズカップは、NPOサロン2002でされている全国大会、U-18リーグチャンピオンズカップにつながるものということで、同じ名称で頭に関東と付けさせてもらっています。いずれはチャンピオンズリーグにしたいと思っています。

この取り組みを全国各地でやってほしいと考えています。都道府県リーグをやるのに精いっぱいなのに、それに加えて何なんだと思われるかもしれませんが、この大会は4日間での実施を想定しています。また、都道府県リーグをやっていないとリーグチャンピオンズカップには出られません。都道府県リーグと並行してやってもらいたい。ヨーロッパ・チャンピオンズリーグのように、メインは地元のリーグで、上位チームがチャンピオンズリーグを戦うような位置づけで、両方をやっていくようなイメージです。

U-18フットサルの将来を考えると、社会人リーグに参加することで満足するのではなく、同世代のチーム、選手を軸に年間で活動できるようにすることを目指しています。サロン2002の方針と一緒に、フットサルを生活の一部に加えていけるようなものを作っていこうということです。

ただそうになると、サッカーはどうするんだという話も出てきます。ハードルはなるべく下げて、カップ戦でもいいのでつないでもらいたい。JFA全日本U-18選手権のためだけでチームを結成するのだと、フットサルは永遠に盛んになりません。特に育成年代において、年に1回というのは、大人にとって4年に一度のオリンピックぐらいの長さとして子どもたちには感じられるでしょう。子どもにとっての1ヶ月、2ヶ月は本当に長い。「次の大会は3ヶ月後だよ」と言っても、子どもにとってはびんと来ない。常に目標を持って活動に取り組むためには、毎月のように大会がある環境が必要で、そういったものを整備したいと考えています。関東リーグチャンピオンズカップもその一つです。

千葉県がリーグ戦を今年度やれなかったのですが、特例で関東リーグへの参加を認めました。それが契機となってか、1月末から千葉県U-18リーグが動き始めました。いまやっているリーグの優勝チームを第3回関東リーグチャンピオンズカップに出すところまで動いているようです。

長野でもこの冬にもう1回、U-18大会をやっているのでしょうか。長野県連盟のオフィシャルサイトに載っていました。年に1回にこだわる必要はないと思いますし、おそらく静岡も、立ち上げのころは年2回に分けてフットサルリーグをやっていました。リーグ回数は静岡県が一番多いはずですが、神奈川と東京は第16回ですが、静岡は18回か19回ぐらいですよ。始まった年はみな同じの2008年です。東京も静岡も神奈川も、リーグ戦は一斉に始まっています。

年1回にこだわることなく、例えば短期リーグを1~2ヶ月でやるようにすれば、年間通しての参加は難しくても出られるところが増えて来るのではないかと。関東リーグチャンピオンズカップも、スケジュール的にはしんどいかもかもしれませんが、11月半ばから12月の4日間に凝縮して、来年もやろうとしています。この期間の土日のどちらかをあけて、隙間を見つけながらやっていけるといいなと思っています。社会人の関東リーグとかぶってしまうと難しいのですが、同年代の試合とは重ならないような日程で調整します。

フットサルを身近にするための普及面の活動も重要だと考えます。フットサルの競技人口が3分の1まで減ったと聞いています。フットサルがおもしろいと思ってもらえるような、グラスルーツ、底辺の部分の底上げなど、いろんな大会を増やしていきたいと思っています。神奈川では冬場にフェスティバルを開いています。参加費はいつもの半分で補助金をもらって運営します。フットサルの登録はしなくてもかまいません。このような大会を年に1回必ずやっています。このような大会をもっともつと、昔のように増やしていければと思います。

あと、私事ではありますが、「花沢さんと千鳥くん」という番組で本校フットサル部が取り上げられました。芸人さんたちが散々楽しみ抜くお相手するだけなんですけれど、うちの学校のフットサル部に来てくれました。ものすごく面白かったし、選手たちも生き生きと楽しくやっておりました。こういったメディアへの出演も含め、フットサルをもっと取り上げてもらいたいですね。かまいたちの山内さんも来ました。フットサルが大好きで、こういった影響力ある人にどんどん出てもらい、露出を増やしていきたいですね。

実はこの番組は武相高校の体育館で撮りました。ここでフットサルを最後にやったのが2002年。それ以来、21年ぶりに体育館でフットサルをやらせてもらいました。これも一つ、切り込みに成功したと言えるでしょう。なかなかボールを蹴らせてもらえなかった体育館でフットサルができたのです。学校だけでなく地域でも、ボールが蹴れない体育館がまだまだあります。理解してもらうために、批判されようが何しようが、繰り返しやっていければと思っています。

長々とすみません。以上になります。

本多：ありがとうございます。では中塚さんに戻します。

Ⅲ. ディスカッション

中塚：各地域に固有の問題から、全国的な、将来的な見通しも含めてお話しいただきました。フットサルとサッカーのスケジュールをどうするか、誰に、いつフットサルをやってもらおうようにするのか、競技会を成立させるための会場や審判の確保はどうするのか。こういったトピックについて、時間を区切りながら意見交換していきたいと思っています。

各地域リーグでは審判をどのようにしているのでしょうか。今年度の第8回大会報告の中でもお伝えしましたが、大会期間が1日延びて試合数が増えたこともあり、リーグチャンピオンズカップでは

審判の確保が難しくなっています。各リーグからの帯同審判を、来年度からお願いしたいと考えています。このあたりについてざっくりばらんに意見交換できればと思います。

もう一つ。いま東京で直面していることを話します。全国どこでも同じだと思いますが、異常な暑さが続く日本の夏です。7~8月にグラウンドでサッカーの大会をやっているものかという話です。東京とサッカー協会の2種部会で、2024年度はもう決まっているスケジュールがあるのでやむを得ないが、2025年度からは7~8月は大会をやらない方向です。ではフットサルはどうなるのか。サッカーだけでなくフットサルもダメとなると、秋になったとたんにも過密日程になるわけです。大友さんの話にもありましたが、レベルの高い層は関東リーグもあるし東京リーグもある。そうなる試合日が取れなくなってきます。フットサル側としては、サッカーができない7~8月は冷房の効いた体育館でフットサルをやればよいと話しています。

皆さんの地域では「夏問題」「スケジュール問題」で、どのようなことが起きているか、あるいはどのような解決策が検討されているのか。ざっくりばらんにお話しいただけませんか。

先ほどの話にもありましたが、富山ではサッカーをやっている人たちにフットサルをやってもらえるよう、高校選手権予選が終わったあたりからフットサルリーグをやっているということですね。

橘 : おっしゃる通りです。11月中旬を第1節としています。以前は11月23日の祝日に審判講習会をしていましたが、そうするとそこからさらに1週間後ようやく試合ができるということなので、少し遅すぎます。そこで今年は、選手権予選が中間考査で途切れる少し前、10月に審判講習会を設定し、11月中旬から第1節を始められるようにしました。

今年は節の確保はかなりできて、チャンピオンズカップまでに代表チームが決められるスケジュールが組めました。JFA大会の県予選は2月に行います。5~6月は過密日程になっているので、JFA大会の県予選を開くことはほぼ不可能です。2月に開かざるを得ないとなったときに、そこに向けて参加できるチームを増やしたり、サッカーとフットサルの両方に触れるチームを増やすような工夫をしています。

北信越大会がどこに設定されるかも関係します。それまでに県代表を決めなければなりません。それがいま6月の2週目や3週目にあります。しかしそこは、サッカーの高校総体とリーグ戦で過密日程になっているのでほぼ不可能です。2月に大会を設定すれば、ハードルを下げた状態でそこに参加していただけるチームを増やしていく流れです。

審判問題に関してですが、富山では以前から、レフェリーは各チームの選手に必ずやってもらうようにしています。チームから最低2人は審判資格を取ってもらい、当該じゃない試合を2人+2人の4人でやってもらいます。風邪とかインフルエンザで審判を派遣できないこともあるので、各チーム4人ぐらいは審判資格を取らせて回していくような形です。さらに、以前やっていたのがユースレフェリープログラムです。フットサル審判インストラクターに会場に来てもらい、リーグ戦で審判の指導をしてもらう審判育成も同時にやっています。レフェリーインストラクターも私です(笑)。1人で何役も、という感じですが…。ユース審判の中から2級審判が生まれることもありました。サッカーでもフットサルでも笛を吹く高校生が出てくるというねらいを持って、審判育成のところでも融合していけたらと考えているところです。

カレンダーの部分でいうと、サッカーのリーグ戦が行われている中でフットサルリーグをやっていくのは、富山県では難しいなと思っています。フットサル部が出てくるのであれば、そういうチームを中心にリーグ編成していくことができます。いま言われた8月開催はねらい目だなと、お話を伺っていて思いました。しかし富山の体育館の場合、会場費よりもエアコン代が高くなりそうです。1時間4,000円の体育館だとしても、1時間のエアコン費が1万円となってきます。それでもという雰囲気は醸成できればやっつけたいとは思っています。

富山でもカレンダー問題は大きいです。実は私は2024年度からサッカーのリーグ委員長もやっています。逆に言うと、いまがチャンスだと思っています。フットサルとのカレンダー作りが自分でできる立場にあります。たとえばサッカーの新人戦は過去数年間、選手権予選の3回戦、準々決勝あたりからスタートさせて、選手権の裏側で、たとえば土曜日に選手権の3回戦があれば日曜日に新人戦の1回戦があるという感じでやっていたんですが、教員が疲弊しました。文句がブーブー出てきましたので、新人戦は12月に持っていこうというチャレンジングなカレンダーを2024年度に作りました。雪は降らないという前提です。私は失敗すればいいと思っています。できなかったね、やっぱりフットサルの方がいいよね、という流れに持っていけたらと思っています。

富山の場合、新人戦の結果でシード権が得られることはありません。だからこれをなくしてしまい、代わりにフットサルで、よりスキルフルにタフにやれる選手を育成しようという方向にできたらなと思っています。

中塚：ありがとうございます。JFAの全国大会予選で言うと、関東の予選が6月下旬から7月にあります。今年は早くて、関東大会が6月15～16日にあります。インターハイの日程とかぶっています。関東大会がそのころにあると、都道府県予選は5～6月初旬になります。東京都では6月9日に“聖地”筑波大学附属高校で準決勝と決勝を行うスケジュールですが、逆算するとスタートは連休のあたり。今年は4月29日スタートです。その申し込みをいまちょうど始めたところですが、4月10日ぐらいの締め切りになると、学校では新入部員を加えることができません。学校の部活は参加しにくくなってきます。そもそも高校総体予選もゴールデンウィークあたりから始まりますから、スタートからもろかぶりです。だから東京都では、サッカー部は出てこられないですね。全国を目指す、上位を目指す人たちはフットサルに特化した形でやってくれというのが、東京の大きな流れとなっています。

山野さん、いまの私の説明で大丈夫ですか。現場との認識のずれみたいなのはないですか。

山野：ないです。サッカーが忙しそうないメージなので、致し方ないという感じです。高校サッカー部が出てきたら面白いとは思いますが…。

中塚：JFA全国大会が始まった最初の時は、東京都代表は関東一高のサッカー部でした。けどいまは日程的にそういうこともできなくなっていますね。

山野：そうですね。高校サッカー部は冬の大会のみ参加するというようなイメージはありますね。時期的な問題だと思います。

中塚：冬の大会というのは、東京都サッカー協会フットサル委員会が主催する大会のことです。フットサルリーグが始まるずっと前、2001年度から、夏のフットサルチャレンジと冬のユースフェスティバルという二つの大会をやってきていまに至ります。夏は、サッカーをやっている高校生は高校選手権予選に力を注ぐ（東京では8月から始まる）ので、フットサル大会をやっても出てこない。だから夏の大会はフットサルの入口、導入編となるような位置づけにしようということです。競技会だけでなく、はじめのころはフットサル講習会を半日やり、その後一日半で、勝っても負けてもゲームができる、丸二日間フットサルが楽しめるかたちでした。この大会はいまも続いており、コロナ明けからは女子の枠を設けて、女子にとってのフットサルの入口になるよう位置付けています。

ユースサッカーリーグは本来、12月中に終わるはずだから、1月から3月はサッカーはオフシーズン～プレシーズンとなります。U-18のサッカーリーグを立ち上げたころはそのようなグランドデザインを描いており、サッカーのオフシーズンに、サッカー部の人たちにもフットサルをやってもらお

う、1月のユースフットサルフェスティバルでは真の東京のU-18フットサルチャンピオンを決めようと考えていました。

いまでも國學院久我山や町田 JFC が出てきます。町田 JFC は U-15 までのクラブで、バリバリにサッカーをやり、高校に上がると全国の高体連の強豪校でプレーするような形ですが、高3の1月に戻ってきて、町田 JFC としてフットサルフェスティバルに出場する。U-18の常設チームはないけど、このときばかりは同窓生が集まってくるんです。こういうチームとFリーグの下部組織であるペスカドーラ町田やフウガドールすみだが戦うところが面白いんです。今年のU-18フットサルリーグチャンピオンズカップで優勝したフウガが、1月のフェスティバルで國學院久我山に負けた試合を私は目の当たりにしています。面白いですよ。

ほかの地域、たとえば熊本、兵庫あたりのスケジュール問題、あるいはサッカーとの関係、審判のことなどいかがでしょうか。

村上：熊本の場合、まず JFA の全国選手権予選を、高校総体のサッカーが終わったところで行うようにしています。去年あたりからです。なので6月の第2週ぐらいに、県の予選を一気にやってしまうような感じで動いています。サッカーチームも多く参加してもらえると、県の連盟が去年から協力的な形で動いてもらってます。

年間リーグの方は、前期を7月ごろにスタートし、11月までに前期を終わらせたいということで動いています。今年は10月中に前期が終わりました。後期リーグは、サッカーの冬の選手権予選が11月の中頃に決勝戦で、それが終わったところから呼びかけてスタートしました。すると前期6チームだったのが10チームに増えて、3月末までやり切る形になっています。予定通りいけば、3月20日で後期リーグが終わる予定です。私はどちらかというとサッカー寄りの人間なので、サッカーと共存できる方法はないかというところで調整しています。私は県の高体連サッカー専門部でフットサル担当になっていますので、僕が間入りながらやれることをして、フットサル連盟にも協力してもらい、柔軟に対応しながら動いているところです。熊本の場合は、フットサル登録じゃなくてサッカー登録でフットサルリーグに参加できるようにしています。登録の面でも緩和されています。

U-18リーグの審判問題ですが、フットサル連盟の審判部の方に来てもらい、まず前期リーグが始まる前に、参加するチームの生徒たち、選手たち全員が審判登録できるようにして、一気に50人から100人近くの子たちが審判免許を取れるようにしています。前期の最初に、ほとんどの子たちが免許を持っています。高校生だと最初が2,000円ぐらいで認定してもらえますよね。その後の更新は500円ぐらいでいけるので、できるだけ高校生に資格を取ってもらい、リーグ戦は免許を持った人間でできるように。まず免許を取ってもらい、リーグ戦は高校生が審判をするという形で動いています。

審判がうまくできなくて酷いゲームになることもあります。だけど指導者は審判に文句を言わない、選手にも文句を言わせない、育成リーグだからそういう形でやっていこうという共通理解があります。いまのところリーグのレベルがさほど高くないからできるのかもしれませんが、まずは子どもたちだけで審判をさせるようにしています。

レベルが高くなってきたときにはちゃんとしたレフェリーがやっていかないと、審判のせいでゲームがダメなものになってしまうのは避けたいですね。ただこうしてやってきたおかげで、高校生の中から上級審判の免許を取りたいという子がポツポツ出てきてくれます。全員に免許を取ってもらい、ルールを知ってもらい取り組みを協会がしてくれているのはありがたいと感じています。

スケジュールと審判のことはこんな形です。

注) 2024~2025 リーグ参加費 (6月30日付メールでの補足説明)

前期 10,000円 (現在9チームで行う予定)

後期 10,000円

※今年度は、学校体育館や秀岳館フットサルコート（人工芝）を使う予定にしています。施設使用料がかからない予定なので参加費を減額しました。参加チーム増加につながりました。後期から参加したいという高校サッカー部も3チーム確定しています。高校サッカー部が参加しやすいように、これからも工夫をしていきます。競技力向上も並行して工夫していきます。（補足ここまで）

中塚：ありがとうございます。難波さん、兵庫の方はどんな感じですか。

難波：私自身がU-18リーグの担当者じゃないのでわかりかねるところもありますが、大友さんもよく知っておられる畠田さんが取りまとめておられます。全日本選手権だとサッカー部のチームもたくさん出てきますが、フットサルリーグには1チームも出てもらっていない状況です。

サッカーのカレンダーに全日本選手権は間違いなく合わせているけど、フットサルリーグをどこまで加味して予定を組んでるのは、いまはわかりません。皆さんの話を聞いていると、我々はフットサル連盟、フットサルのチームを持ってる人やフットサルの審判の人たちと一緒に運営していることが多いのですが、サッカーチームやサッカー協会の人たちとの直接的な関わりが少ないので、やはりそういった方たちと繋がりを持って、一緒になって作っていくようにしなければならないということにいま気付かされました。

中塚：ありがとうございます。皆さんからもっともっと意見をもらいたいところですが、いい時間になってしまいました。安藤さん、茅野さん、磯さんから、ここまで話を聞いてもらっての感想でいいのでお聞かせいただけないでしょうか。

茅野：貴重なご意見、ご報告、ありがとうございました。私はフットサルに全く携わっていないので感想しか言えませんが、ずいぶん時代が変わってきたなど、いろいろなお話を聞いて感じました。もともとサッカーの発生種だったのが、ちゃんと独自の世界を開いて、特に若い年代の中で展開してる力強さのようなものを感じました。

ますます発展していくために、しかるべきあり方を考えていく時期が来たんだなというのを感じた次第です。今日はありがとうございました。

磯：貴重なお話ありがとうございました。私はU-18年代ではなくて、どちらかという地元の大人のフットサル、皆で楽しんでいこうみたいなところで、それを広げていこうというような話をしています。小学校でサッカーを教えますが、国立市で、小中高の一貫したフットサルチームを作れないかというようなことにも取り組んでいます。

先日、フットサルB級の講習会にも行ってきて、E-ラーニングは受かったけど、指導実践がいま不合格で追試です。小中高の方もやりたいと思いながら、フットサル人口が減ってるというのを気にしていた中で今日、やっぱり減ってるんだということをお聞きして、どうしていこうかなと少し悩んでいます。それと、先ほども言いましたが、15チームを集めて今月、大人のフットサル大会をやりました。けどやっぱり審判問題が本当に大変で、やはり同じところで悩んでるんだなというのを感じました。サッカーは少年の4種のところで皆が審判資格を取りますが、フットサルは公式試合がないので資格を持つところまで行きません。審判をどうやって確保していくかというのは、この後も国立市で大会をやりたいので、同じ悩みがあるのだなと思いました。

安藤：皆さんお話ありがとうございました。私はハンドボールに携わっているのですが背景が少し違いますが、すごく印象に残ったのは村上さんの話で、選手全員が審判資格を取ってもらうということです。それは村上さんのチームだけじゃなくて、全チームがという理解でよろしいですか。

村上：はいそうです。全チームに呼びかけて、ほとんどの選手にとってもらおうという形で取り組んでいます。

安藤：全チームを巻き込んだというのもすごいですね。反対するチームはなかったのでしょうか。

村上：そうですね。お金がかかるので強制的には言えませんが、みんなで取って、みんなでフットサルを覚えましょうということを監督さんたちに言ったら、賛同してくれる監督さんたちが多くて、協力してくれました。

安藤：チームの選手たちに笛を吹かせると、指導者も、文句を言いたくても我慢するという状況がいっぱい出てくると思います。羨ましいなと思うのは、ハンドボールは指導者の暴言がいまだにいっぱいあるので、選手たちにゲームを任せる雰囲気が出てくればハンドボールもいいのになというのが印象に残りました。

中塚：ありがとうございます。そろそろ予定の時間になったので一旦、全体では閉めますが、このルームはまだまだずっと空けておきますので、オンラインで懇親会、飲み物を持ってきても持ってこなくてもいいと思いますが、残れる人は残って話ができればなと思います。

時間があれば取り上げたかったのは、ちょうどU-18フットサルリーグチャンピオンズカップの10周年が迫っているんです。今年の1月が第8回。第9回大会も含め、第10回大会のところで10年の「記録」と、こんなことやっているよという「プロモーション」も含め、映像にまとめたいということサロン2002で検討しています。今年の大会で各チームから90秒での紹介を開会セレモニーでやってもらいましたが、各地域の様子などを映像で撮ってきてもらい、こんなチームが来てるんだ、この大会に参加するために竹林のアルバイトをやってきてるんだということが共有できるといいなと思います。その映像を、ことぶきアリーナでお弁当を配布していたスペースにモニターを置いて常設で見られるようなやり方もあるんじゃないか。こんな話を主催者として、千曲市と連携しながら考えています。少し頭の中に入れておいてください。

審判派遣については、引き続き主催者側で議論しますが、皆さんからもご意見ください。

スケジュール問題については、東京で直面していることは先ほども言いましたが、全国各地で考えるべきことで、それぞれに解決策を探らないといけません。地域の実情を出し合うことも必要だと思います。現状把握のための調査をお願いすることがあるかもしれません。よろしくお願いします。

サッカーやフットサルが他のスポーツに先駆けていろいろやっていくのですが、サッカーやフットサルだけで1年間を埋めてしまうのでなく、「春はサッカー、秋はバスケット」のように、シーズン制でいろんなスポーツができるような「ゆとり」を持って進めていきたいと、個人的には思っています。

どうもありがとうございました！